

南砺の障害者施設利用者

香り袋を手作り 交通安全啓発へ



交通安全運動で配る香り袋を作った利用者たち＝南砺市の花椿かがやきで

作りし、催しなどで販売している。施設職員は「今年
はコロナで、一生懸命作っ
ても見てもうっ機会がな
い。安全運動を通じ施設の
活動をPRしたい。みんな
が生活しやすいよう、障害
者の理解が進むといい」と
話す。

(松村裕子)

秋の交通安全運動で、南
砺市八塚、障害者通所施設
「花椿かがやき」の利用者
が、啓発用の香り袋を手作
りし、三十日に市内のショ
ッピングセンターで配る啓
発活動に初参加する。新型
コロナウイルスのため売り
先がなくなった香り袋を活
用し、市民に障害者への理
解を深めてもらう。

香り袋は三角すい形の布
製で、ラベンダーの香りが
し、交通安全おみくじ付
き。おみくじには「いい香

りでリラックスし、気持ち
を穏やかに、譲り合い運転
を」との呼び掛けと、「得
意な作業を分担して作りま
した」との説明を付けた。

知的障害者ら十二人が、
六月に市内で摘んだラベン
ダーを使い、ラベンダーの
小袋詰めや布の裁断、ミシ
ン縫いなど、各自が得意な
作業を分担して百個を作っ
た。うち数人が南砺署員ら
との啓発活動に加わり、買
い物客らに自ら手渡す。

利用者は普段、小物を手

ら使い続けているというダ